

伊藤 隆敏

コロンビア大学教授（兼）政策研究大学院大学特別教授

1973年一橋大学経済学部卒業。同大学院経済学研究科修士課程を経て、1979年ハーバード大学経済学博士課程修了(Ph.D.)。ミネソタ大学経済学部助教授、同准教授、一橋大学経済研究所助教授、同教授、東京大学先端科学技術研究センター教授を経て、2004年東京大学大学院経済学研究科、兼、公共政策大学院教授(2012年同院長)に就任、2014年4月政策研究大学院大学教授(兼)東京大学公共政策大学院特任教授を経て、2015年1月、コロンビア大学教授(兼)政策研究大学院大学教授、2016年4月より現職。その間、1992-94年ハーバード大学ケネディー行政大学院客員教授、1994-97年国際通貨基金(IMF)調査局上級審議役、1999-2001年大蔵省副財務官、2006年10月-2008年10月、経済財政諮問会議の民間議員、2009年秋学期コロンビア大学ビジネス・スクール客員教授を務めた。

著書には、『不均衡の経済分析—理論と実証—』(東洋経済新報社、1985、第29回日経経済図書賞)、『Japanese Economy』(MIT Press、1992)、『インフレ目標と金融政策』(東洋経済、2006)、『インフレ目標政策』(日本経済新聞出版社、2013)、『日本財政「最後の選択」』(日本経済新聞出版社、2015)、『公共政策入門——マイクロ経済学的アプローチ』(日本評論社、2017)、『Managing Currency Risk(共著S. Koibuchi, K. Sato, and J. Shimizu)』(Edward Elgar、2018)等。金融政策、国際金融論に関する編著書、論文多数。

一流の雑誌に掲載された代表的論文には次のものがある。“Foreign Exchange Rate Expectations: Micro Survey Data” *American Economic Review*, 1990; “Meteor Showers or Heat Waves? Heteroskedastic Intra-daily Volatility in the Foreign Exchange Market” (Robert Engel, Wen Ling Lin と共著) *Econometrica*, 1990; “Asian Currency Crisis and the IMF, Ten Years Later: Overview” *Asian Economic Policy Review* 2007.

2004年度日本経済学会会長。2010年、関税・外国為替等審議会、外国為替等分科会会長、2013年、同審議会会長。2011年春、紫綬褒章受章。

1950年、札幌生まれ。趣味、音楽。